

倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画

計画の目的と対象

【背景と目的】

- ・ハートビル法、交通バリアフリー法及び新バリアフリー法の施行により、すべての人に快適な移動空間の整備が進められるなか、倉敷駅周辺のサインも「倉敷市交通バリアフリー基本構想」をふまえた、バリアフリーやユニバーサルデザインの視点からの見直しが必要となっている
- ・「倉敷市公共サインガイドライン」にもとづき、あらゆる利用者の立場に立った検討を行い、だれもが分かりやすく、見やすい、さらに景観にも配慮したサインの整備を目指す

【計画の対象】

- ・倉敷市交通バリアフリー基本構想の重点整備地区である、倉敷駅周辺地区内の特定経路及び準特定経路を中心に、誘導案内施設の整備を検討
- ・整備するサインは、案内マップを表示する案内サインと、移動経路上に設置される誘導サインの2種類

整備の基本方針

■サイン整備の課題（サイン点検調査、アンケート調査、ワークショップ結果等より）

①誘導案内を必要とする人が見つけやすいサイン
景観へ十分な配慮しつつ、来訪者が見つけやすいデザインの検討

③高齢者や障害者等への配慮
だれもが安心・安心に移動できるサイン整備
思いやりをもった誘導案内機能の充実

②必要な情報をわかりやすく表示
一目で情報内容が理解しやすい表示
年齢や国籍に関係なく理解できる表示手法

④計画的かつ効果的なサイン配置
来訪者の行動経路をふまえた計画的な配置計画
最小限のサインによる効果的な誘導案内

倉敷駅周辺誘導案内施設のサイン整備方針

■サイン整備のコンセプト

観光都市「くらしき」として、
ホスピタリティにあふれたサインシステムの実現

- ◇おもてなし=思いやりのあるまちづくり
- ◇だれもが快適に過ごせるまちづくり
- ◇安全、安心な行動を支えるまちづくり

バリアフリー、ユニバーサルデザインの視点を重視したサインデザイン

来訪者の視点による効果的・計画的なサイン配置

関係機関等との連携・調整によるサイン整備

倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画

サイン機能整備計画

配置方針

■誘導ルートの設定

- ①観光誘導ルート：JR倉敷駅から美観地区周辺までの誘導
- ②施設誘導ルート：JR倉敷駅から倉敷中央病院への誘導
- ③その他の誘導ルート：美観地区までの誘導ルートから市民会館と倉敷市芸文館へ誘導

■案内誘導拠点の設定

拠点	行動起点	誘導拠点	分岐点	連絡点
場所	倉敷駅	美観地区入口（周辺） 倉敷中央病院・市民会館 倉敷市芸文館 等	誘導ルートが分岐するか、 交差点で曲がる地点 （主要交差点等）	誘導ルート上 の交差点等
誘導案内機能	広域案内図 駅前広場等案内 主要地点への誘導機能 その他	周辺案内図 倉敷駅までの案内マップ 主要地点への誘導機能	主要地点への誘導機能 倉敷駅までの案内マップ	主要地点への 誘導機能

表示レイアウト

ガイドラインにもとづき表示内容・レイアウトを行う

■案内サイン

- 色彩：コントラストを確保、色覚バリアフリーに配慮
- 文字サイズ：施設名・丁目名は文字高さ10mm、英語6mm
- ピクトグラム等：JISピクトグラム、主要施設はイラスト

■誘導サイン

- 文字サイズ：文字高さ60mm、英語表記48mmを基準
- その他表示：表示面最上部にインフォメーションマークと地点名称を表示

美観地区のサイン機能整備

- ・誘導ルートを設定せず、主に案内サインによる情報提供の充実により誘導案内機能を整備
- ・**景観に配慮したデザイン・材質**について関連機関等と十分調整を図り、美観地区にふさわしい施設デザインを決定する

サイン施設整備計画

施設デザインの基本方針

- 倉敷のまちなみ景観に合うデザイン
- 連続性・統一性を確保できるデザイン
- だれも見やすいシンプルなデザイン
- サインとして必要な「見つけやすい」デザイン
- 既存サイン施設をできるだけ活用したデザイン

- 現在ある石造サイン施設を活かしたデザイン
- unnecessary 装飾のないシンプルなデザイン
- サインとして必要な高さと同在性を確保したデザイン

案内サイン

- だれも見やすいように、垂直パネル型の施設を設置
- 既存石造サインはそのまま活用し、誘導サインパネルを併設



誘導サイン

- 既存石造サイン横に、誘導サインパネルを設置
- 既存施設は、表示面に傾斜をつけ案内マップを設置
- 商店街など、目線高さの表示が見つけにくい場所では、矢羽根型のサインや路面標示による誘導案内を検討



整備計画箇所数

案内サイン：16箇所（新設11箇所）
誘導サイン：28箇所（新設13箇所、路面標示3箇所）